



当たり前前が続くように

石巻市立蛇田小学校 6年 三浦 彩楓

当たり前前が当たり前でなくなったらどうなるのだろう。私たちの住んでいる石巻市では、いつものように水道の蛇口をひねると水が出てきます。もちろん、旅行をした時などは、日本中どこへ行っても水を飲むことができます。そのようなことが、当たり前でない国もあります。以前、社会の勉強やテレビで、私たちと同じ年齢の女の子が、水をくみに行くために何時間も歩いている姿を見たことがあります。生きていくために仕方がないことなのですが、私たちに想像のできないことです。

今、振り返ってみると、私たちも一時的ですが、水道から水が出なくて苦労したことがあります。東日本大震災発生後のことです。電気やガスなどのライフラインが使えなくなり、多くの人々が困難な状態になりました。もちろん、水道も使えなくなりました。水が手に入りにくかったので、のどがかわいても何時間もがまんしていました。8年以上も前のことなので、詳しい記憶はありませんが、リュックサックに入れていた水筒の水を、のどがなるくらいごくごく飲んでいただけは、今でも忘れられません。当時は何日間も水道が使えなかったので、家族が給水車から限られた水を分けてもらっていたのだと思います。幸い、数日間のがまんできるとなると、日常生活を取りもどすことができました。あの時は、間違いなく、多くの人々が水が大切であることを痛感したと思います。

蛇口をひねると水がでること。それは、私たちの日常生活では当たり前前のことです。しかし、水がなかったら、どうなってしまうのだろうと考えただけでも不安な気持ちになります。洗たくや料理、お風呂、歯みがき、手洗い、うがい、くつ洗いなど私たちの生活と水は、切っても切れない関係にあるのです。洗たくができなければ、毎日、汚い服を着たままになります。汗をかいても、服は洗えません。水が使えないということは、日常生活が続けられないということにもなります。よく考えれば、誰でも理解できることです。学校生活でも同じことが言えます。水やりができまから、花や野菜を育てることができません。メダカを飼育することもできません。家庭科の調理実習もできません。そうじもできません。おそらく、給食だって食べることができません。

水が使えないということは、こんなに不便なことばかり起きてしまうのに、私たちがあまり心配することなく、当たり前前に生活することができるのはなぜでしょうか。多くの大人が、水道に関係する仕事をしてきているのも事実です。水道管工事をしてきている人もいます。ダムで仕事をしてきている人もいます。しかし、それだけではありません。川の水をきれいにしようと努力しているボランティアの人もいます。雨が降れば山に水が流れて、その水が川に流れ、浄水場などで消毒されて、安心して安全な水が蛇口から出てくるのです。

蛇口から当たり前前のように水がでるようにするために、私たち小学生にもできることがあるのではないのでしょうか。大人の人にだけ任せてはいけないと思います。私たちにもできることがあります。きれいな環境を守るために、川にごみを捨てないことは、心がけしだいで誰にもできることです。蛇口をこまめにしめて、水の流しっぱなしをしないこともできます。小さなことかもしれないかもしれませんが、むだづかいをせずに、もったいないという気持ちを持ち続けることが大切です。時には、家族や友達と水の恵みについて、真剣に話し合うことも必要です。そして、当たり前前のことだと思いこまずに、感謝の気持ちを忘れずに、毎日の生活を見直していくことも大切だと思います。